



愛の小径～LOVE SONGS

恋人は6月に咲いた 赤い赤いバラのよう
恋人は調べも美しい 甘い甘い音楽のよう

詩人バーンズの有名なボエムに出会ったとき、これは私のことだ、と衝撃が走ったのを覚えています。まだ十代のはじめでした。恋をしていると、心のなかでいつでも音楽を奏でてしまう——それは大人になった今でも変わりません。

どんなに苦しくても、恋に落ちたらひとは、相手を隅から隅まで知りたくなる。その名前、その生まれ、さまざまな感情や物語。一つ一つを紐解くごとに、相手の魅力は増していく。考えてみたら私は、そうしてクラシック音楽を聴いてきました。つまり、クラシック音楽にずっと恋をしてきたのです。病めるときも健やかなるときも、そばにいてくれるもの。それが私にとっての音楽なのです。

だから私は、音楽のプレゼントが好きです。おきにいりのレコードも演奏会も、カーステレオにプレイリストを仕込むのも、すべてすてきなプレゼント。そしてもっとも美しいプレゼント、それは音楽家が恋人やパートナーのためにつくった、音楽そのもの。恋の喜び、悲しみを歌った「恋人に捧げるクラシック」で、愛いっぱいヴァレンタインデーを。

高野 麻衣

～収録曲について～

1. ジョン・ダウランド (1563-1626): グリーンスリーヴス・ディヴィジョンズ [ドロシー・リネル (リュート)]

古い英国民謡。「あなたといるだけで幸せだった」という切ない歌詞が、素朴で美しいメロディで紡がれる。プレイボーイで音楽の名手だった16世紀の国王ヘンリー8世の作曲という伝説もロマンティックです。

2. ヨハン・ゼバスティアン・バッハ (1685-1750): アンナ・マグダレーナ・バッハの音楽帳 (クラヴィア練習曲集第3巻) - 御身が共にいるならば BWV 508 (伝G.H.シュテルツェル作) [エミリー・グレイ (ソプラノ)/クリストファー・ストークス (オルガン)]

「あなたがそばにいれば 死も怖くない」。イエスへの信頼を歌ったものですが、そのやさしい穏やかな旋律は愛そのもの。バッハが後妻アンナ・マグダレーナのために贈った歌曲集の1曲です。

3. ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト (1756-1791): ピアノ協奏曲第21番 ハ長調 K.467-II. アンダンテ [イエネ・ヤンドー (ピアノ)/コンツェントゥス・フンガリクス/アンドラーシュ・リゲティ (指揮)]

わがいとこのモーツァルトの音楽のなかでも、とりわけロマンティックな1曲。フランスでは、この曲を恋人と手をつないでともに聴いたら末永く結ばれる、というおまじないもあるのだとか。

4. ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト (1756-1791):

歌劇「フィガロの結婚」 K.492 Act II Scene 3: 「恋とはどんなものかしら」

[イングリット・ケルテシ (ソプラノ)/ハンガリー国立歌劇場管弦楽団/ピエール・ジョルジョ・モランディ (指揮)]

牧歌的な伴奏に、凜としたメゾソプラノの声。少年に憧れていた十代の私が、自分をいちばん重ね合わせていた音楽。恋に憧れる、という懐かしい感覚も、音楽は一瞬で思い出させてくれます。





5.ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770-1827):

ヴァイオリン協奏曲 二長調 Op.61-III. ロンド:アレグロ

[西崎崇子(ヴァイオリン)/スロヴァキア・フィルハーモニー管弦楽団/ケネス・ジーン(指揮)]

もう一人の初恋の人、シャーロック・ホームズは大のヴァイオリン好き。ベーカー街221Bの下宿では、よく演奏会で聴いたヴァイオリンの曲を練習していました。とある事件の解決を祝って弾いていたこの曲は、初恋の思い出。

6.ロベルト・シューマン(1810-1856):詩人の恋 Op.48-美しい五月に

[ゼバスティアン・ブルート(バリトン)/アニタ・ケラー(ピアノ)]

シューマンといえば、クララとの恋。「詩人の恋」は、クララとの結婚の年に綴られた恋の日記です。二人の結びつきにはいろんな側面がありますが、シューマンがどんなにロマンティストだったかは、彼の歌曲を聴けばわかります。

7.ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー(1857-1919):

バレエ音楽「白鳥の湖」Op.20-ヴァルス

[スロヴァキア・フィルハーモニー管弦楽団/ミハエル・ハラース(指揮)]

女の子たるもの、一度は舞踏会に憧れたはず。このワルツは1997年の映画『アンナ・カレーニナ』で、アンナが伯爵と道ならぬ恋に落ちる舞踏会でも華麗に流れました。高ぶる情動は、恋のときめきそのもの。

8.セザール・フランク(1822-1890):天使のパン(パニス・アンジェリクス)

[エローラ・セント・ジョンズ合唱団/マシュー・ラーキン(オルガン)/ノエル・エジソン(指揮)]

パニス・アンジェリクス、あるいは天使の糧。その意味は、「神様の恵み」です。私はそれを、恋や愛というあたたかな感情のことだと思っています。チョコレートで名高いベルギーのリエージュで作曲された音楽でもあります。

9.作曲者不詳:美しく優しいこまどり

[ドロシー・リネル(リュート)]

英国の劇作家シェイクスピアは、じつはラブソング界の名作詞家です。こまどり(Robin)は、英国ではとてもなじみ深い野鳥で、かわいい恋人を表現するたとえ。

10.レイフ・ヴォーン・ウィリアムズ(1872-1958):命の家-沈黙の正午

[ロデリック・ウィリアムズ(バリトン)/イアイン・バーンサイド(ピアノ)]

19世紀英国ラファエル前派の画家ロセッティの詩に曲をつけたもの。デザイナー、ウィリアム・モリスの妻ジェインと奇妙な三角関係にあったロセッティの、不思議に満ち足りた愛の情景が広がります。

11.グスタフ・マーラー(1860-1911):交響曲第5番 嬰ハ短調-IV.アダージェット

[ポーランド国立放送交響楽団/アントニ・ヴェイト(指揮)]

マーラーが最愛の妻アルマに捧げたとされるラブソング。大河のようにたゆたう包容力と、震えるような官能性をあわせもった傑作。ヴァイコンティの名作『ベニスに死す』以降も、愛の情景に繰り返し使用されています。

12.フランシス・プーランク(1899-1963):レオカディア-Act III 愛の小径

[ロナルド・ファン・スペンドク(クラリネット)/アレクサンドル・タロー(ピアノ)/ダニエル・ダリユー(メゾ・ソプラノ)他]

第二次世界大戦下。パリの戦火を逃れ、疎開先で創作を続けていたプーランクが魂をこめて作曲した劇中歌。美しい恋の思い出を歌ったこの曲は、パリ生まれのプーランクの故郷愛にも感じられます! 憧れ、恋、そして愛。その感情は、いかなるときも人々を芸術へ駆り立てます。もっとも大いなるもの、それは愛なのです。

OTTAVA selection次作は、2015年3月リリース予定

